

< 5歳児・学年全体の様子 >

本園では幼小連携研究を経て、平成14年より接続期を設け、現在は5歳児2学期から卒園までを「接続前期」としている。接続前期のねらいである「関わりを広げ、深める」「体験の共有化をはかる」を念頭に置き、2学期より2クラス混合で編成した4チームでの活動を取り入れてきた。

今年度の年長組は、大きい組らしく幼稚園を自分たちの場として過ごしていたが、気の合う友達との関係から一步を踏み出し、一人ひとりの持ち味がより一層生かされる豊かな関わりが生まれていくことを願い、学年やクラスより少し小さい集団として13~14名のチームを編成した。

チーム活動のスタート時は、戸惑う子どももいたが、秋の運動会、芋掘りなどの行事や、日常の遊びでもチームでの関わりを取り入れ、子どもたちがチーム内のお互いをわかり合い、気持ちをひとつにする心地よさを味わえるようにしてきた。チーム活動をきっかけに、いろいろな場面で友達との関わりが広がってきている。自分の好きなこと、得意なことを周囲に積極的に伝えようとする、友達のしていることに気付いて、自分から関わり、取り入れてみようとするが増えてきた。その過程で、友達の新たな面に気付いたり、自分の力を発揮する充実感に気付いたりする子どもも多く見られるようになった。

2学期半ばから、動物を作り動くようにしたり触れるようにしたりして動物園を開く、廃材を利用して様々なタイプのカートを作りコースを工夫して走らせるなど、遊びがより大掛かりになったり、細かい部分を探究したりするようになった。そこで、こうした遊びに新たに考えた遊びも加えて、年少組・年中組に楽しんでもらえるような協働的な活動「おいもまつり」を開催することにした。活動への関わり方はそれぞれであったが、同じ興味を持つことで集った仲間と数日かけて準備を進め、年少児に楽しんでもらう充実感を味わっていた。

3学期も、時間をかけて遊びの準備を進める、人を招待して楽しんでもらうといった遊びが、いろいろなところで行われている。例えば、「春を祝う会」で獅子舞を観た後、獅子面を作り太鼓を打ち鳴らし幼稚園中を練り歩く、園庭の一角にロープを使った公園を作り年少児たちにやらせてあげる等である。友達関係も深まり、氷鬼やドロケイに加え、教師から提案した十字鬼やドンジャンケンも、今では子ども同士が誘い合い、長い時間取り組み、新たな友達が加わりながら、長期間継続している。

毎日、いろいろな友達と一緒に寸暇を惜しんで遊んでいる。友達の得意なこと、苦手なことがわかり、自然に補い合う姿も見られる。年少組からも頼りにされていて、幼稚園の生活を支え、牽引する存在になっている子どもたちはたくさんいる。一方で、少し気になることとしては、例えば、3学期が始まってすぐに渡したコマ回しは、地道に取り組む姿があまり見られないといったことである(最近じわじわと増えているが)。「やることなく、困っている」と口に出す子どもが時々いて「考えることも大事よ」と返してはいるが、挑戦する、夢中になるなど、ぐっとのめりこむ姿が見られない子どももいる。

戸惑い、失敗していいから、自分の思いを出し、実現する過程を十分味わい、その子らしく生活して欲しいという願いを胸に、教師も一緒に考えたり、子どもたちに投げかけたりしているところである。

< 最近の遊びマップ >

5歳児 山の組・海の組

保育研究シート

(担任) 高橋陽子・灰谷知子・戸田実穂

< 園庭 >

十字鬼やドンジャンケンなど

保育室前の広場に登園後すぐに子どもが集まり、体を動かす遊びをすることが多い。ルールがある遊びでいろいろな友達と関わり合うことが嬉しい様子である。長時間楽しんだり集まった子同士で、次は何をしようかと相談し、同じ場でいろいろな遊びが展開している。

< お山 >

ポケモンなどの遊びの目的をもって友達と出向き、遊んでいる。誰のヤリにも盛んに、イメージを共有し面白さを取り入れながら楽しんでいる。

< 夏みかんの木 >

1学期から、園庭の様々な恵みを収穫したり、調理したりしてきた。山の組前の土で皮むき、色や香り、酸っぱさを味わっている。

< 遊戯室 >

大型積木、コグブロック

自分たちのイメージに合わせた大きな場をつくらせている。やりたいことを互いに伝え合い、必要なものを保育室から運び入れたり、なりきり、動かしたりして、友達との遊びを楽しんでいる。

コマ

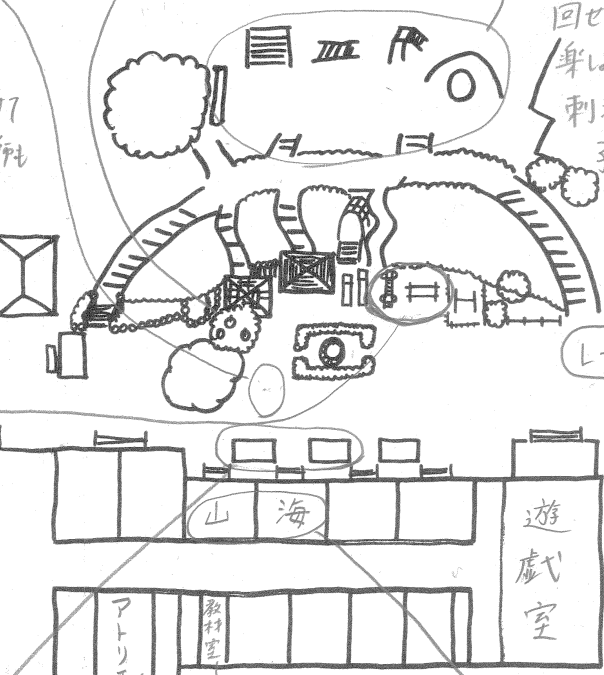
あらかじめ挑戦し続けた子が回せるようになり、友達と一緒に楽しめながら回している。その姿に刺激を受け、あきらめかけた子どもが、再び挑戦し出している。大型積木でコマ場をつくり、大勢で回したり、保育室に戻りコマの装飾と工夫している。

ロープの公園

9月頃、ロープを遊具に結びつけた物を持ち上げる姿を受け、教師と一緒にアイデアを出しながら、ロープの公園を作った。その後も時折いろいろな人がロープで場を作り、挑戦したり年少児たちにやらせてあげたりしている。

< 砂場 >

イメージをもって数名で声をかけ合いながら遊んでいる。もっとこうしたらどうだろうと、互いのアイデアを重なる中でより一層面白い場となり、夢中になって長時間遊んでいる。時に崩れたり、ぶつかり合うこともあるが、持ちこたえてまた楽しく作り直そうとするが増えている。



< アトリエ >

2学期後半になつて自分たちのやりたい遊びに合わせて活用する場になってきた。先週は、保育室で始まった豆まきの息作りを、小さい組に秘密で進めたい、大きい息広い場を作りたという思いが重なり、アトリエを使用し、助け合ったり、互いの息を笑い合ったり、同じ目的に向かっていろいろな子どもが関わり合いながら楽しんでいた。

< 保育室 >

生活の中心に位置づく空間。様々な場で遊ぶ中で必要なものがあると戻ってきたり、次は何をしようかと回りの様子を見て考えたりしている。

< 教材室 >

自分のイメージに近づけたものの作りをしようとする時に、たくさん材料の中から必要なものを選んでいく。

レーシングカート

自分のレーシングカートを作り、様々な斜面を走らせる遊びが2学期から長く続いている。保育室、戸外、遊戯室などで、斜面や角度などを試しながら自分たちのコースを作っている。

前週の子もたちの姿から

環境構成・教師の関わり

モノとの関わり

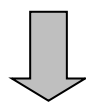
- ・コマ回しでは、持ち方、投げ方、力加減など、自分でコツをつかみ始めた子どもが増えている。
- ・遊戯室の大型遊具の扱いに慣れてきて、大きな家など自分たちの遊ぶ場をつくっている。ままごと道具、テーブル、座布団など、必要な物を考え合って保育室から運び、友達とイメージを重ね合わせながら遊んでいる。

ヒトとの関わり

- ・豆まきに向けての鬼作りは、小さい組に驚いて欲しいという願いから、アトリエに集まって作るようになっていった。何かをしたいと集まってきた子ども同士で、鬼作りをする、困っていると助け合うなど、関わり合って進める姿が自然と生まれていた。
- ・大量のミミズの発見、ロープを使っての公園作り、砂場での大きな山作りなど、誰かが発見したり楽しみ始めたことに、いろいろな子どもが関わり、アイデアを伝え合い実現しようとしている。

コトとの関わり

- ・いろいろな遊びが継続している中で、新たな遊びをやってみようとする子どもが増え、体験の幅が広がっている。
- ・豆まきが近いことを学級で話題にしたところ、昨年度自分たちがしてもらったことを思い出す姿が多かった。同じようにやりたいという思いと同時に、自分たちなりのアイデアを加えて取り組もうとする姿がある。



*週のねらい

- いろいろなことに興味を広げ、友達と協力しながら遊びや生活をすすめる。
- あきらめずに挑戦する中で、自信をつける。
- 季節の行事<節分・豆まき>の意味を知り、友達と協力して取り組む。

○いろいろなことに興味を広げ、友達と協力しながら遊びや生活をすすめられるように

- ・一人の子どもが始めたことに、いろいろな子どものアイデアが重なって、遊びが楽しく継続していくように、教師間で連携して支える。
- ・大型遊具や段ボールなど、友達同士で力を合わせて使いながら、より一層イメージに近い物を作り上げられるように、声をかけたり手伝ったりする。
- ・自分の考えを伝え、相手の考えを受け入れながら、遊びをすすめようとする姿を認め、子どもたちの互いの良さが活かされていくようにする。
- ・継続して遊び込めるよう教師間で連携して支える中で、友達と作戦を立てるなど遊びの楽しさをより一層実感できるようにする。
- ・他学年の子どもたちとも関わり合いながら遊べるように配慮しながら、場の作り方や使い方を子どもたちと考える。
- ・子ども同士で互いに声をかけあって、遊びを進めたり片づけをしたりなど、メリハリのある生活ができるように促す。
- ・冬から春にかけての季節の変化、例えば霜柱探しなどを、感覚を通して豊かに味わえるよう、子ども達の発見を共感的に受けとめ、教師も一緒に楽しむようにする。

- 当番活動**
- ・どんなことができるか、何をしたらみんな暮らしやすくなるかを、子どもたちと一緒に考えて、当番活動をふくらませていく。
 - ・チームの仲間と声をかけ合ってやることを確認しながら進める姿を認めていく。

○あきらめずに挑戦する中で、自信をつけていけるように

- ・投げコマや手編みなど、根気強く挑戦し続ける中で、自分でコツをつかんでいく姿を捉えて、一人ひとり伸びているところを認めていく。
- ・あれもこれもやりたい気持ちが先走り、一つのことにじっくり取り組めない様子の子どものには、気持ちを受け止めながら、一つのことに挑戦して、達成する喜びが味わえるように励ましたり、時には教師と一緒に挑戦したりする。
- ・本当はやってみたい気持ちがあるが、なかなか素直に動き出せない子どもには、機会を捉えて声をかけ、一歩踏み出せるように支える。
- ・一人ひとりがじっくり遊びこみ、達成感や充実感をもって一日を終え、それが一人ひとりの自信につながっていくように認める。

- 投げコマ**
- ・自分でコマを回す感覚をつかんでいけるよう、あと一歩頑張るように励ましたり、繰り返しコツを伝えたりする。
 - ・スパンコールや金紙をつけるなど、身近な材料を活用し工夫を重ね、継続して楽しめるように、子ども達のアイデアを受け入れながら取り組む。
- まりつき**
- ・ドッジボールを使って「あんたがたどこさ」をしている子どもがいたので、歌に合わせてまりをつく楽しさを味わえるよう、まりを準備しておく。
 - ・新しい遊びに挑戦する楽しさはわかるが、現在取り組んでいる遊びも極めて欲しいという思いがあるので、使い始めるタイミングはよく考える。

○季節の行事<節分・豆まき>の意味を知り、友達と協力して取り組めるように

- ・当日は、豆を投げたり、鬼になって逃げたり、子どもたちがイメージをもって、季節の行事を十分に楽しめるようにタイムスケジュールなども配慮する。
- ・興奮しやすい行事であることも念頭におき、教師間で連携して始まりと集結のタイミングを見て働きかけ、子どもたちが安全に取り組めるようにする。
- ・鬼役の子どもたちが自分たちで持ち場を考えたり、鬼役にならない人にも伝え合えたりし合えるように、教師も声を掛け合う。
- ・豆まき後、遊戯室で「泣いた赤鬼」のスライドを観たり、豆を年の数味わって食べたり、大きくなることを喜び合えるようにする。
- ・節分は、邪気（災害や病気など悪いこと）を追い払い、無病息災でいられるために、豆まきをするという意味も伝えながら、取り組めるようにする。

3日(月) 豆まき	4(火)	5(水)	6日(木)	7日(金) 公開保育研究会
9:00 登園 うがい手洗い 飼育物の世話など 自分の選んだ遊びに取り組む *自分の箱作り、鬼作り仕上げ 9:45 アトリエに集合。 お山へ移動する。 10:00 太鼓で鬼登場。豆まき開始 10:40 終了へ 片付け 11:15 弁当 自分の選んだ遊びに取り組む 12:50 遊戯室へ 「スライド：泣いた赤鬼」 13:20 保育室に戻り、砂糖がけの豆を食べる 身支度 13:30 降園	9:00 登園 うがい手洗い 飼育物の世話など 自分の選んだ遊びに取り組む 11:15 片づけ 11:45 昼食 自分の選んだ遊びに取り組む 12:50 片付け 13:10 降園前の集まり 歌や絵本など 身支度 13:30 降園	9:00 登園 うがい手洗い 飼育物の世話など 自分の選んだ遊びに取り組む 10:50 片付け 11:10 降園前の集まり 歌やゲームなど・身支度 11:30 降園	9:00 登園 うがい手洗い 飼育物の世話など 自分の選んだ遊びに取り組む 11:15 片づけ 11:45 昼食 自分の選んだ遊びに取り組む 12:50 片付け 13:10 降園前の集まり 歌や絵本など 身支度 13:30 降園	9:00 登園 うがい手洗い 飼育物の世話など 自分の選んだ遊びに取り組む 10:50 片付け 11:10 降園前の集まり 歌や紙芝居など・身支度 11:30 降園 研究発表 学年別協議会・講演会
<p>保育室・廊下：製作・コマ回し・手編み・ショー・ままごと、お店屋さん、宝探しなど 遊戯室：コマ回し(対決・技など)・まりつき・相撲・ショー・大型遊具で場作り(キングブロック・大型積み木) 園庭：十字鬼・ドッジボール・砂場・ロープの公園・ドンジャンケンなど</p>				
面談	面談(山の組)	横井先生参観・研究会に向けて	面談(山の組)	

歌：豆まき カレンダーマーチ ともだちさんか あんたがたどこさ
 絵本や紙芝居：長編のお話やろうそくの話 ゲーム：ジャンケンゲーム、ラウンドチェンなど